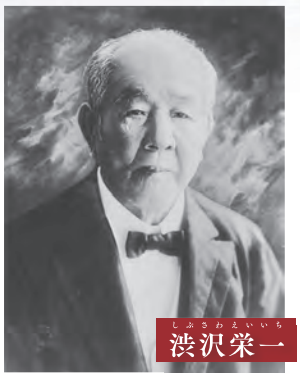
京浜工業地帯を作った男

浅野総一郎（あさの そういちろう）

「浅野財閥」と呼ばれるほどの大事業を一代で築いたのが、浅野総一郎である。横浜で竹皮、薪炭、石炭などを扱ったのが諸事業の始まりで、やがて渋沢栄一と出会い、セメント事業に進出した。その後、総一郎は数々の事業を手掛ける大実業家へと飛躍するのである。

また、金融面で最大の理解者は同郷の安田善次郎であった。国家事業にも匹敵する東京横浜間の埋立事業は、総一郎と善次郎の壮大な偉業として近代史に刻まれる。まさに、夢の近代遺産であった。

安田善次郎が財政面をバックアップ



渋沢栄一との出会いが運命を開く

- 失敗続きの人生がようやく開けてくるのは、横浜での竹皮がきっかけで、薪炭、石炭、コークスなどを扱うことで、渋沢栄一との運命的な出会いがあったからである。
- 浅野財閥 が築かれる基盤は、セメント事業であった。民間払い下げの工場を立て直し、「浅野セメント合資会社」を設立する際は、金融王・安田善次郎が支援者に加わった。

- 埋立事業は壮大な計画で、浅野総一郎と安田善次郎の夢の偉業として歴史に刻まれた。東京～横浜間の近代化に貢献した越中人の名は、町名・駅名になって語り継がれている。

JR 鶴見線

浅野駅

校訓に〈九転十起〉と〈愛と和〉を掲げる浅野総一郎が創設した浅野学園

総持寺門前

浅野総一郎の墓
（写真提供：浅野学園）